

## 2変数の $p$ 進 $L$ 関数について

九大理 小塚和人 (Kazuhito Kozuka)

### §1. 序

$K$  を類数 1 の虚 2 次体,  $-d_K$  を  $K$  の判別式,  $\mathfrak{o}$  を  $K$  の整数環とする.  $E$  を  $K$  上定義され,  $\mathfrak{o}$  による虚数乗法を持つ楕円曲線とし,  $\psi$  を  $E$  の  $K$  上の量指標,  $\phi$  を  $\psi$  の導手とする.  $E$  の Weierstrass model

$$(1.1) \quad y^2 = 4x^3 - g_2x - g_3$$

を,  $g_2, g_3 \in \mathfrak{o}$  で, (1.1) の判別式  $\Delta = g_2^3 - 27g_3^2$  が  $64$  を割る素因子のみで割り切れるように固定する.  $p(x)$  を (1.1) に関する Weierstrass 関数,  $L$  を  $p(x)$  の周期格子とし,  $\Omega_\infty \in L$  を,  $L = \Omega_\infty \mathfrak{o}$  となるように固定しておく.

$p$  を  $6d_K f$  と素で,  $K$  において  $(p) = \mathfrak{p}\mathfrak{p}'$  と分解する有理素数とする.  $K_{\mathfrak{p}}$  を  $K$  の  $\mathfrak{p}$  による完備化とし,  $p$  進有理数体  $\mathbb{Q}_p$  と同一視する.  $\mathbb{C}_p$  を  $K_{\mathfrak{p}}$  の代数閉包の完備化,  $\mathcal{O}$  を  $\mathbb{C}_p$  の整数環とする.  $\overline{\mathbb{Q}}$  を有理数体  $\mathbb{Q}$  の複素数体  $\mathbb{C}$  における代数閉包とし,  $\overline{\mathbb{Q}}$

の  $\mathbb{C}_p$  への埋め込みを固定して,  $\mathbb{Q} \subset \mathbb{C}_p$  とも見ることにする.

$K$  の量指標  $\psi$  に対し,  $L(\psi, s)$  を  $\psi$  に関する原始的な Hecke  $L$  関数とする.  $K$  の整イデアル  $\mathfrak{o}$  に対し,  $R_{\mathfrak{o}}$  を  $K$  の ray class field mod  $\mathfrak{o}$  とする.  $\mathfrak{o}$  が  $\psi$  の導手で割り切れる時, 各  $\sigma \in \text{Gal}(R_{\mathfrak{o}}/K)$  に対し,  $L_{\mathfrak{o}}(\sigma, \psi, s)$  を  $\psi$  と  $\sigma$  に対する部分ゼータ関数とする.

$K$  の原始的な類指標  $\chi$ , 及び整数  $0 \leq j < k$  に対し,

$$(1.2) \quad L_{\infty}(\overline{\psi^{k+j}\chi}, k) = (1 - \psi^{k+j}\chi(\mathfrak{g})/N\mathfrak{g}^{j+1})(1 - \overline{\psi^{k+j}\chi}(\mathfrak{g})/N\mathfrak{g}^k) \\ \times (2\pi/\sqrt{d_k})^j |\Omega_{\infty}|^{-j} L(\overline{\psi^{k+j}\chi}, k)$$

とおく.

Damerell の定理により, (1.2) の右辺は  $\mathbb{Q}$  に属する. ここでは (1.2) を本質的な値として補間する 2 変数の  $p$  進巾級数を構成し, それを用いた  $K$  のアーベル拡大の類数公式を紹介させて頂きます.

## §2. Eisenstein 級数の $p$ 進的性質

整数  $k \geq 1$  に対し,

$$K_k(z, \rho) = \sum_{w \in L, w \neq -z} (\bar{z} + \bar{w})^k |\bar{z} + \bar{w}|^{-2\rho}, \quad \text{Re}(\rho) > 1 + k/2$$

とし, これの全  $\rho$  平面への解析接続も  $K_k(z, \rho)$  と書く. 整数  $k > j \geq 0$  に対し,

$$E_{j,k}(z) = (k-1)! (2\pi/\sqrt{d_k})^j |\Omega_{\infty}|^{-2j} K_{k+j}(z, k)$$

とおく. さらに,  $E_k(z) = E_{0,k}(z)$  とおく.

$\sigma(z)$  を  $L$  の Weierstrass  $\sigma$  関数とし,  $\theta(z) = \Delta \exp(-b\Omega_2 z^2) \sigma(z)^{12}$

とおく. ここに,  $\Omega_2 = \lim_{x \rightarrow 0^+} \sum_{\omega \in L - \{0\}} \omega^{-2} |\omega|^{-2x}$  である.

$K$  の  $f$  と素な整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,

$$\Theta(z, \mathfrak{a}) = \theta(z)^{N\mathfrak{a}} / \theta(\psi(\mathfrak{a})z)$$

とおく.  $\Theta(z, \mathfrak{a})$  は,  $L$  を周期に持つ楕円関数で,

$$\Theta(z, \mathfrak{a}) = \Delta(L) / \Delta(\mathfrak{a}^{-1}L) \cdot \prod_{\ell \in \mathfrak{a}^{-1}L / L - \{0\}} \Delta(L) / (\rho(z) - \rho(\ell))^6 \in K(\rho(z)).$$

となる. ここに,  $\Delta(L), \Delta(\mathfrak{a}^{-1}L)$  はそれぞれ格子  $L, \mathfrak{a}^{-1}L$  の判別式である.  $\mathfrak{a}$  を  $\mathfrak{O}$  の単数で,  $\mathfrak{a}$  を法として 1 に合同なものの全体の個数とする.

$E_{j,k}(z)$  に関して, 次の性質が成り立つ ([8] §2);

(2.1) 整数  $k \geq 1, \alpha \in \mathfrak{O} \setminus L$  と,  $f$  と素な  $K$  の整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,

$$(d/dz)^k \log \Theta(z+\alpha, \mathfrak{a}) \Big|_{z=0} = 12(-1)^{k-1} \{ N\mathfrak{a} E_k(\alpha) - \psi(\mathfrak{a})^k E_k(\psi(\mathfrak{a})\alpha) \}$$

となる.

(2.2)  $\psi^{k+j}$  の導手が  $\mathfrak{q} \in \mathfrak{O}$  を割り切るとき,  $g_f$  と素な  $K$  の整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,

$$E_{j,k}(\psi^k \Omega_{\mathfrak{a}} / \mathfrak{q}) = (k-1)! (2\pi/\sqrt{d_k})^j \Omega_{\mathfrak{a}}^{-(k+j)} (g^{k+j} / N\mathfrak{q}^j) \cdot \mathcal{L}_{(\mathfrak{q})}(\mathfrak{O}_k, \overline{\psi^{k+j}}, k)$$

となる. ここに,  $\mathfrak{O}_k = (\mathfrak{O}, R_{(\mathfrak{q})}/K)$  である.

(2.3) 整数  $k > j \geq 0$  に対し, 次を満たす多項式  $P_{j,k}(X_1, \dots, X_{k+j}) \in \mathbb{Z}[X_1, \dots, X_{k+j}]$  が存在する.

$\deg P_{j,k} \leq j+1$ ,  $\deg_{X_i} P_{j,k}(X_1, \dots, X_{k+j}) \leq j-1$  かつ

$$E_{j,k}(z) = (-E_1(z))^j E_k(z) + 2^{-j} P_{j,k}(E_1(z), \dots, E_{k+j}(z)).$$

(2.4)  $g \in \mathcal{U}$  と,  $g \nmid$  と素な  $K$  の整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,

$$E_{j,k}(\Omega_\infty/g) \in K(E_g), \quad E_{j,k}(\Omega_\infty/g)^{(\mathfrak{a}, K(E_g)/K)} = E_{j,k}(\psi(\mathfrak{a})\Omega_\infty/g)$$

となる.

$g \in \mathcal{U}$  と, 整数  $n, m \geq 0$  に対し,  $g_n = g\psi(\bar{g}^n)$ ,  $g_{n,m} = g\psi(g^n \bar{g}^m)$

とおく. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 2.1.  $g \in \mathcal{U}$ ,  $(g, \bar{g}) = 1$  とする. このとき, 整数  $k > j \geq 0$  に対し,  $\mathbb{C}_p$  において,

$$\lim_{m \rightarrow \infty} \{ \bar{g}_m^j E_{j,k}(\Omega_\infty/g_m) - (-\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m))^j E_k(\Omega_\infty/g_m) \} = 0$$

となる. さらに,  $\lim_{m \rightarrow \infty} \{ -\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m) \} \in \mathfrak{g}^x$  が存在し, これは  $g$  のとり方によらない.

$$\Omega_g = \lim_{m \rightarrow \infty} \{ -\bar{g}_m E_1(\Omega_\infty/g_m) \} \text{ とおく.}$$

$\hat{E}$  を  $E$  の演算を parameter  $t = -2\alpha/y$  で展開して得られる形式群とする.  $\hat{E}$  から乗法的形式群  $G_m$  への  $g$  上の同型  $\eta$  を,  $\eta(T) = \Omega_g T + \dots$  となるようにとることができる.  $\lambda: \hat{E} \rightarrow G_a$  を  $\hat{E}$  の logarithm とする.

### §3. 2変数 $p$ 進 $L$ 関数の構成

$\chi$  を  $K$  の類指標,  $f_x$  を  $\chi$  の導手とする.  $R_x$  を  $\text{Ker } \chi$  に対応する  $R_{f_x}/K$  の中間体とする.  $F$  が  $R_x$  を含む  $K$  のアーベル拡大のとき,  $\chi$  を  $\text{Gal}(F/K)$  の指標ともみることにする.

$\kappa_1: \text{Gal}(K(E_{g^m})/K) \cong \mathbb{Z}_p^*$ ,  $\kappa_2: \text{Gal}(K(E_{g^{n_x}})/K) \cong \mathbb{Z}_p^*$  をそれぞれ,  $\text{Gal}(K(E_{g^m})/K)$ ,  $\text{Gal}(K(E_{g^{n_x}})/K)$  の  $E_{g^m}$ ,  $E_{g^{n_x}}$  の作用を表す同型とする.

$\nu$  を  $\mathbb{Z}_p^*$  の有限指標とすると,  $\nu \circ \kappa_1$ ,  $\nu \circ \kappa_2$  はそれぞれ  $\text{Gal}(K(E_{g^m})/K)$ ,  $\text{Gal}(K(E_{g^{n_x}})/K)$  の有限指標になる.  $\nu_g, \nu'_g$  をそれぞれ  $\nu \circ \kappa_1$ ,  $\nu \circ \kappa_2$  によって導入される  $K$  の類指標とする.

$\chi$  は,  $\chi = \chi_1(\nu_x)_g (\nu'_x)_{g'}$  と表すことができる. ここに,  $\chi_1$  は導手が  $p$  と素な  $K$  の類指標,  $\nu_x, \nu'_x$  は  $\mathbb{Z}_p^*$  の有限指標である.  $\nu_x, \nu'_x$  はさらに,  $\nu_x = \varphi \omega^{i_1}$ ,  $\nu'_x = \varphi' \omega^{i_2}$  と分解される. ここに,  $\varphi, \varphi'$  は  $\mathbb{Z}_p^*$  の第 2 種指標,  $\omega$  は Teichmüller 指標,  $i_1, i_2$  は  $\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z}$  の元である.

$f_x = g_x \bar{g}^{n_x}$ ,  $(g_x, p) = 1$  とする.  $g_x$  は  $\chi_1$  と  $(i_1, i_2)$  にのみ依存し,  $R_{\chi_1} \subset K(E_{g_x})$  となる.  $g_x$  を  $g_x$  の生成元とする.  $\nu_x, \nu'_x$  の導手はそれぞれ  $p^{n_x}, p^{n'_x}$  となる.

整数  $m \geq 1$  と,  $p$  と素な  $K$  の整イデアル  $\mathfrak{a}$  に対し,  $\Theta(z + \Omega_{\mathfrak{a}}/g_m, \mathfrak{a}) \in K(E_{g_m})(\beta(\mathfrak{a}), \beta'(\mathfrak{a}))$  となり, 従って, 各  $\sigma \in \text{Gal}(K(E_{g_m})/K)$  に対し, 関数  $\Theta(z + \Omega_{\mathfrak{a}}/g_m, \mathfrak{a})^\sigma$  が自然に定義される.

$$\Lambda_m(z, \mathfrak{a}) = \prod_{\sigma \in \text{Gal}(K(E_{g_m})/R_{\chi_1}(E_{g_m}))} \Theta(z + \Omega_{\mathfrak{a}}/g_m, \mathfrak{a})^\sigma$$

とおく. これは,  $R_{\lambda_1}(E_{\bar{g}^m})$  係数の  $f(z)$  と  $f'(z)$  の有理関数になる.

$I_{\lambda_1}$  を  $6P4A_{\lambda_1}$  と素な  $K$  の整イデアル全体の集合とし,

$$\mathcal{S}_{\lambda_1} = \left\{ \mu: I_{\lambda_1} \rightarrow \mathbb{Z} \mid \mu(n) = 0 \text{ for almost all } n \in I_{\lambda_1}, \sum_{n \in I_{\lambda_1}} \mu(n)(Nn-1) = 0 \right\}$$

とおく. 各  $\mu \in \mathcal{S}_{\lambda_1}$  に対し,

$$\Lambda_m(z; \mu) = \prod_{n \in I_{\lambda_1}} \Lambda_m(z, n)^{\mu(n)}$$

とおく. さらに,

$$C_{m, \mu, \lambda_1}(T) = \Lambda_m(\psi(\bar{g})^{-m} \lambda(T); \mu), \quad g_{m, \mu, \lambda_1}(T) = \lambda'(T)^{-1} \frac{d}{dT} \log C_{m, \mu, \lambda_1}(T)$$

とおく.  $C_{m, \mu, \lambda_1}(T)$ ,  $g_{m, \mu, \lambda_1}(T)$  は共に,  $R_{\lambda_1}(E_{\bar{g}^m})[[T]] \cap \mathcal{G}[[T]]$  に属する.

各  $\tau \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}(E_{\bar{g}^m})/K)$  に対し,  $k_2(\tau)$  は  $\text{mod } p^m$  で一意に定義され, 従って,  $(1+T)^{k_2(\tau)}$  は  $\text{mod}((1+T)^{p^m}-1)$  で一意に定義される. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 3.1. 各  $\sigma \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}/K)$  に対し,

$$\lim_{m \rightarrow \infty} \sum_{\substack{\tau \in \text{Gal}(R_{\lambda_1}(E_{\bar{g}^m})/K) \\ \tau|_{P_{\lambda_1}} = \sigma}} g_{m, \mu, \lambda_1}^{\tau}(T_1) (1+T_2)^{k_2(\tau)} \in \mathcal{G}[[T_1, T_2]]$$

が存在する.

命題 3.1 の極限級数を,  $g_{\mu, \lambda_1}^{\sigma}(T_1, T_2)$  と書くことにする.

$i = \eta^{-1}: G_m \cong \hat{G}$  とし,

$$h_{\mu, \chi_1}(T_1, T_2) = \sum_{\sigma \in \text{Gal}(K_{\chi_1}/K)} \chi_1^{-1}(\sigma) g_{\mu, \chi_1}^{\sigma}(i(T_1), T_2)$$

とおく. さらに,  $\tau(\nu_{\chi}^{-1}, J_{p^{n_{\chi}}}) = \sum_{a=1}^{p^{n_{\chi}}} \nu_{\chi}^{-1}(a) J_{p^{n_{\chi}}}^a$ ,  $\tau(\nu'_{\chi}, J_{p^{n'_{\chi}}}) = \sum_{a=1}^{p^{n'_{\chi}}} \nu'_{\chi}(a) J_{p^{n'_{\chi}}}^a$

とおき,

$$(h_{\mu, \chi_1})_{(\nu_{\chi}, \nu'_{\chi}^{-1})}(T_1, T_2) = \tau(\nu_{\chi}^{-1}, J_{p^{n_{\chi}}})^{-1} \tau(\nu'_{\chi}, J_{p^{n'_{\chi}}})^{-1} \\ \times \sum_{\substack{1 \leq a \leq p^{n_{\chi}} \\ 1 \leq b \leq p^{n'_{\chi}}}} \nu_{\chi}^{-1}(a) \nu'_{\chi}(b) h_{\mu, \chi_1}(J_{p^{n_{\chi}}}^a (1+T_1)^{-1}, J_{p^{n'_{\chi}}}^b (1+T_2)^{-1})$$

とおく. ここに, 整数  $n \geq 0$  に対し,  $J_{p^n}$  は 1 の原始  $p^n$  乗根であるが, 以後これは,  $i(J_{p^n}^{-1}) = -2\beta(\Omega_{\infty}/\psi(\beta^n)) / p'(\Omega_{\infty}/\psi(\beta^n))$  となるようにとられているものとする.

一般に, 各  $f(T_1, T_2) \in \mathcal{F}[[T_1, T_2]]$  に対し,  $\mathbb{Z}_p^2$  上の  $\mathcal{F}$  値 measure  $\nu_f$  が対応しており ([7] §6), 各  $(j_1, j_2) \in (\mathbb{Z}/(p-1)\mathbb{Z})^2$  に対し,  $\Gamma$  変換

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}: \mathbb{Z}_p^2 \rightarrow \mathcal{F}$$

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}(\alpha_1, \alpha_2) = \int_{\mathbb{Z}_p^2 \times \mathbb{Z}_p^2} \langle \alpha_1 \rangle^{\alpha_1} \langle \alpha_2 \rangle^{\alpha_2} \omega^{j_1}(\alpha_1) \omega^{j_2}(\alpha_2) d\nu_f$$

により定義される. ここに,  $\alpha \in \mathbb{Z}_p^x$  に対し,  $\langle \alpha \rangle = \alpha / \omega(\alpha)$  である.

乗法群  $1+p\mathbb{Z}_p$  の位相的生成元  $u$  を固定すると, 中絶数

$f^{(j_1, j_2)}(T_1, T_2) \in \mathcal{F}[[T_1, T_2]]$  が存在して,

$$\Gamma_f^{(j_1, j_2)}(\alpha_1, \alpha_2) = f^{(j_1, j_2)}(u^{\alpha_1-1}, u^{\alpha_2-1})$$

となる.  $U_j f(T_1, T_2) = f(T_1, T_2) - \frac{1}{p} \sum_{j'=1}^{p-1} f(j'(1+T_j)^{-1}, T_2)$ ,  $D_j = (1+T_j) d/dT_j$

( $j=1, 2$ ) とおく. このとき,  $(h_{\mu, \chi_1})_{(\nu_{\chi}, \nu'_{\chi}^{-1})}(T_1, T_2)$  の定義と, §2 で述べたことから,

次の命題が導かれる.

命題 3.2.  $k_1 > -k_2 \geq 0$ ,  $k_1 \equiv k_2 \equiv 0 \pmod{p-1}$  なる整数  $k_1, k_2$  に

対し,

$$\begin{aligned} \Gamma_{(h_{\mu, \chi_1}, v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})}^{(-1, 0)}(k_1-1, -k_2) &= (D_1^{k_1-1} D_2^{-k_2}) (U_1(h_{\mu, \chi_1}, v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})) \Big|_{(0,0)} \\ &= -12 g_{\chi_1}^{k_1} v_{\chi_1}(g_{\chi_1}) e_{g_{\chi_1}} [K(E_{g_{\chi_1}}) : R_{g_{\chi_1}}] \\ &\quad \times \sum_{\alpha \in I_{\chi_1}} \mu(\alpha) (N\alpha - \psi^{k_1} \bar{\psi}^{k_2} \chi(\alpha)) \\ &\quad \times \chi_1(v'_{\chi_1})_3 (g^{n_{\chi_1}}) \psi^{k_1}(g^{n_{\chi_1}}) \bar{\psi}^{k_2}(g^{n_{\chi_1}}) \tau(v_{\chi_1}^{-1})_{p^{n_{\chi_1}}}^{-1} \\ &\quad \times \Omega_g^{1-k_1+k_2} (k_1-1)! L_{\infty}(\overline{\psi^{k_1-k_2} \chi}, k_1) \end{aligned}$$

となる.

$$g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = h_{\mu, \chi_1}^{(i_1-1, -i_2)}(u^{-1}(1+T_1)-1, (1+T_2)^{-1}-1) \quad \text{とおく. このとき,}$$

き,

$$(3.1) \quad g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(\varphi(u)u^{a_1}-1, \varphi(u)u^{a_2}-1) = \Gamma_{(h_{\mu, \chi_1}, v_{\chi_1}, v'_{\chi_1})}^{(-1, 0)}(a_1-1, -a_2)$$

となる.

各  $\alpha \in \mathbb{Z}_p^\times$  に対し,  $l(\alpha) \in \mathbb{Z}_p$  を,  $\langle \alpha \rangle = u^{l(\alpha)}$  となるものとする.

$$(3.2) \quad A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = -12 \omega^{i_1}(g_{\chi_1}) e_{g_{\chi_1}} [K(E_{g_{\chi_1}}) : R_{g_{\chi_1}}] (1+T_1)^{l(g_{\chi_1})} \\ \times \sum_{\alpha \in I_{\chi_1}} \mu(\alpha) (N\alpha - (1+T_1)^{l(\psi(\alpha))} (1+T_2)^{l(\bar{\psi}(\alpha))} \omega^{i_1}(\psi(\alpha)) \omega^{i_2}(\bar{\psi}(\alpha)) \chi_1(\alpha))$$

とおく.  $\mathcal{S}_{0, \chi_1} = \{ \mu \in \mathcal{S}_{\chi_1} \mid \alpha \in I_{\chi_1}, \chi_1(\alpha) \neq 1 \text{ のとき, } \mu(\alpha) = 0 \}$  とおき,

$H_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}$  を  $\{ A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \mid \mu \in \mathcal{S}_{0, \chi_1} \}$  によって生成される  $\mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]]$  の

イデアルとする. このとき, [7] 補題 28 と同様に,

$$(3.3) \quad \begin{cases} H_{\chi_1}^{(i_1, i_2)} = \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \quad (i_1, i_2) \neq (0, 0), (1, 1), & H_{\chi_1}^{(0, 0)} = T_1 \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] + T_2 \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \\ H_{\chi_1}^{(1, 1)} = (T_1+1-u) \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] + (T_2+1-u) \mathbb{Z}_p[[T_1, T_2]] \end{cases}$$



となる.

$$(3.4) \quad g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) = g_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) / \Omega_g A_{\mu, \chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) (1+T_2)^{\ell(\psi(\bar{g}^m))}$$

とおく. これは,  $\mu \in \mathcal{S}_{\chi_1}$  のとり方に無関係となる. 命題 3.2,

及び (3.1), (3.2), (3.3), (3.4) から, 次の定理が得られる.

定理 3.3.  $g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(T_1, T_2) \in \mathcal{J}[[T_1, T_2]]$  で,  $k_1 > -k_2 \geq 0, k_1 \equiv k_2 \equiv 0$

(mod  $p-1$ ) なる整数  $k_1, k_2$  に対し,

$$g_{\chi_1}^{(i_1, i_2)}(\psi(u)u^{k_1}-1, \psi(u)u^{k_2}-1) = (\psi^{k_1} \chi_1 (V'_x)_g) (g^{n_x}) \tau (V'_x, I_{p^{n_x}})^{-1} \\ \times \Omega_g^{-(k_1-k_2)} (k_1-1)! L_{\infty}(\psi^{k_1-k_2} \chi, k_1)$$

となる.

#### §4. 類数公式について

類数公式について説明する為に, まず, 1変数  $p$  進  $L$  関数に関する結果を述べる.

§3 と同様,  $\chi$  を  $K$  の類指標とし,  $\chi = \chi_1 (V_x)_g (V'_x)_g, V_x = \psi w^{i_1}, V'_x = \psi w^{i_2}, f_x = g_x g^{n_x} \bar{g}^{n_x}, (f_x, p) = (g_x, p) = 1$  とする.

$$a_{\chi_1, V'_x, i_1} = \begin{cases} -1 & (\chi_1 = V'_x = 1, i_1 = 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases} \text{ とおく. このとき, 次の命題が}$$

成り立つ.

命題 4.1.  $g_{\chi_1, V'_x, i_1}(T) \in T^{a_{\chi_1, V'_x, i_1}} \mathcal{J}[[T]]$  が存在して,  $k > 0,$

$k \equiv 0 \pmod{p-1}$  なる整数  $k$  に対し,

$$g_{\chi, \nu'_x, i} (\Psi(u)u^k - 1) = \Omega_g^{-k} \tau(\nu'_x, J_{p^{n_x}})^{-1} (k-1)! (\Psi^k \chi(\nu'_x)_g) (g^{n_x}) \\ \times (1 - \Psi^k \chi(g)/N_g) \Omega_\omega^{-k} L(\overline{\Psi^k \chi}, k)$$

となる.

$$L_p(\chi, s) = (\chi(\nu'_x)_g)^{-1} (g^{n_x}) g_{\chi, \nu'_x, i} (\Psi(u)u^{1-s} - 1) \text{ とおく.}$$

$K$  の整イデアル  $\mathfrak{o}$  に対し,  $\text{Cl}(\mathfrak{o})$  を  $K$  の ray class group mod  $\mathfrak{o}$  とする.  $k_{\mathfrak{o}}$  を  $\mathfrak{o}$  に属する最小の正の有理整数とする. 各  $C \in \text{Cl}(\mathfrak{o})$  に対し,  $\Psi_{\mathfrak{o}}(C) \in R_{\mathfrak{o}}$  を [5] §2 で定義された ray class invariant とする.

$$S^{(p)}(\chi) = \sum_{C \in \text{Cl}(\mathfrak{o}_x)} \chi^{-1}(C) \log_p \Psi_{\mathfrak{o}_x}(C) \in \mathbb{C}_p$$

とおく. このとき, 次の命題が成り立つ.

命題 4.2.  $\chi \neq 1$  のとき,

$$L_p(\chi, 1) = - (1/12 k_{\mathfrak{o}_x} e_{\mathfrak{o}_x} \tau(\nu'_x, J_{p^{n_x}})) (1 - \chi(g)/p) S^{(p)}(\chi)$$

となる.

$H$  を  $K$  の有限次アーベル拡大,  $h_H, R^{(p)}(H), d_{H/K}, W_H$  をそれぞれ,  $H$  の類数,  $H$  の  $p$  進単数規準,  $H$  の  $K$  上の相対判別式の生成元,  $H$  に属する 1 の根の個数とする. 各  $\chi \in \widehat{\text{Gal}}(H/K)$  に対し,  $\chi$  が導入する  $K$  の原始的な類指標も  $\chi$  と書くことにする.

$\alpha, \beta \in \mathbb{C}_p^\times$  に対し,  $\alpha/\beta \in \mathcal{G}^\times$  のとき,  $\alpha \sim \beta$  と書くことにする. このとき, 次の定理が成り立つ.

定理 4.3.  $\prod_{\chi \in \widehat{G_{\mathbb{Q}_p}}(H) \setminus 1} L_p(\chi, 1) / (1 - \chi(\beta)/p) \sim h_H R^{(p)}(H) / W_H \sqrt{d_{H/K}}$  となる.

$\chi_0$  を  $K$  の自明な類指標とする.  $F_\infty, F'_\infty$  をそれぞれ  $K(E_{\mathcal{G}^\infty})$ ,  $K(E_{\mathcal{G}^\infty})$  に含まれる  $K$  の  $\mathbb{Z}_p$  拡大,  $F_n, F'_n$  をそれぞれ  $F_\infty/K, F'_\infty/K$  の中間体で,  $K$  上  $p^n$  次のものである. また,  $K_\infty, K_\infty^-$  をそれぞれ,  $K$  の cyclotomic  $\mathbb{Z}_p$  拡大, anticyclotomic  $\mathbb{Z}_p$  拡大,  $K_n, K_n^-$  をそれぞれ,  $K_\infty/K, K_\infty^-/K$  の中間体で,  $K$  上  $p^n$  次のものである. このとき, 次の系が成り立つ.

系 以下の (1)~(4) が成り立つ. ( $\varphi$  は第 2 種指標を動く.)

$$(1) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, 0) / (1 - \varphi(\varphi(\beta))/p) \sim h_{F_n} R^{(p)}(F_n) / \sqrt{d_{F_n/K}}$$

$$(2) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(0, \varphi(u)-1) / (1 - \varphi(\varphi(\beta))/p) \sim h_{F'_n} R^{(p)}(F'_n)$$

$$(3) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, \varphi(u)-1) \sim h_{K_n} R^{(p)}(K_n) / \sqrt{d_{K_n/K}}$$

$$(4) \prod_{\substack{\varphi \neq 1 \\ f_\varphi | p^{n+1}}} G_{\chi_0}^{(0,0)}(\varphi(u)-1, \varphi^{-1}(u)-1) \sim h_{K_n^-} R^{(p)}(K_n^-) / \sqrt{d_{K_n^-/K}}$$

## 文献

- [1] J. Coates and A. Wiles, On  $p$ -adic  $L$ -functions and elliptic units, *J. Austr. Math. Soc. (Series A)*, 26 (1978), 1-25.
- [2] E. de Shalit, *The Iwasawa Theory of Elliptic Curves with Complex Multiplication*, *Perspec. Math. Orland*, Academic Press 1987.
- [3] C. Goldstein, *Courbes elliptiques et theorie d'Iwasawa*, *Pub. Math. Dorsay*, 82-01.
- [4] K. Kozuka, Elliptic units and two variable  $p$ -adic  $L$ -functions, *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ.*, 40 (1986) 77-90.
- [5] G. Robert, *Unités elliptiques*, *Bull. Soc. Math. France Mémoire*, 36 (1973).
- [6] A. Weil, *Elliptic functions according to Eisenstein and Kronecker*, Berlin - Heidelberg - New York, Springer 1976.
- [7] R. Yager, On two variable  $p$ -adic  $L$ -functions, *Ann. of Math.*, 115 (1982), 411-449.
- [8] R. Yager,  $p$ -adic measures on Galois groups, *Invent. Math.*, 76 (1984), 331-343.